

2022年3月期 決算説明会

2022年5月11日
富士フイルムホールディングス株式会社

本日のアジェンダ

– 2022年3月期 決算説明会 –

2022年3月期

1

決算ハイライト及びVISION2023進捗状況

富士フイルムホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO

後藤 禎一

2

連結業績及び事業概況

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO

樋口 昌之

2023年3月期

3

通期連結業績予想

富士フイルムホールディングス株式会社 取締役・CFO

樋口 昌之

2022年3月期

決算ハイライト及びVISION2023進捗状況

2022年3月期 決算ハイライト

2022年3月期(2021年度) 連結業績

- ▶ 新型コロナ影響からの着実な回復と、ヘルスケア及び電子材料の伸長により、業績予想をクリアし、過去最高益となる「営業利益」及び「当社株主帰属当期純利益」を達成。
- ▶ ヘルスケアが売上高・営業利益ともに最大のセグメントに成長。

(2/9公表値)

売上高

2兆 **5,258** 億円

対2020年度 (+15.2%)
対2019年度 (+9.1%)

営業利益

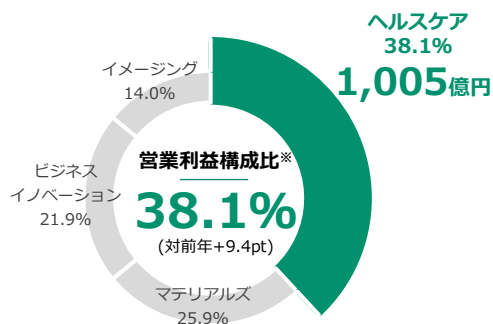
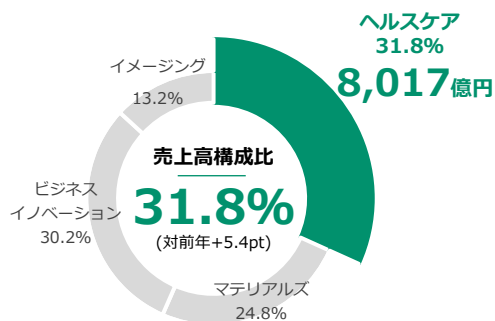
過去最高
2,297 億円

(+38.8%)
(+23.1%)

当社株主帰属
当期純利益

過去最高
2,112 億円

(+16.5%)
(+69.0%)



*営業利益の構成比は、全社/連結調整前

配当金

12期連続増配

110円/株
(対前年+10円)



▶ 2022年3月期の業績目標値を全て達成。

	2022年3月期 実績	VISION2023 達成率	2022年3月期 VISION2023
✓ 売上高	2兆 5,258 億円	達成率 104 %	2兆4,400億円
✓ 営業利益	2,297 億円	達成率 128 %	1,800億円
✓ ROE	9.0 %	+ 2.8 pt	6.2%
✓ ROIC	5.6 %	+ 1.0 pt	4.6%
✓ CCC	122 日	+ 2 日	124日
✓ 営業CF	3,239 億円	遂行率 32 %	1兆円/3年間

2023年3月期 連結業績予想ハイライト

2023年3月期(2022年度) 連結業績

- ▶ 全セグメント増収増益により、「営業利益」で2期連続で過去最高益を更新する。
- ▶ 年間配当は、13期連続増配となる120円/株を予想。

売上高

2兆6,500億円

対前年

(+4.9%)

営業利益

過去最高

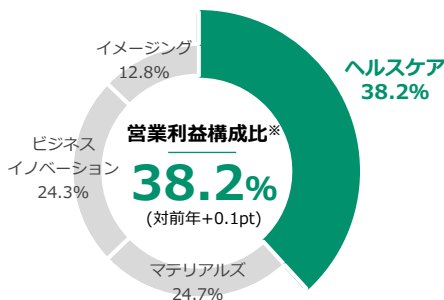
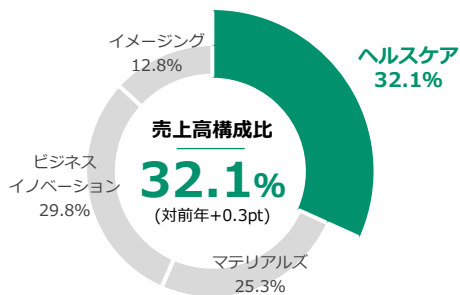
2,450億円

(+6.7%)

当社株主帰属
当期純利益

1,920億円

(▲9.1%)



*営業利益の構成比は、全社/連結調整前

配当金

13期連続増配

120円/株
(対前年+10円)



2023年3月期 ヘルスケア成長に向けた取り組み FUJIFILM

■ メディカルシステム事業

- ▶ AI技術ブランド「REiLI」の活用拡大
- ▶ 富士フイルムヘルスケア*とのグループシナジー創出

*日立製作所の画像診断関連事業を承継した会社

■ バイオCDMO事業

- ▶ Atara社から買収した製造拠点(米国CA州)での細胞治療薬の開発・製造受託ビジネスの推進
- ▶ FDB*英国拠点で微生物培養向けに増設したGMP製造設備が稼働

*FDB:FUJIFILM Diosynth Biotechnologies

■ ライフサイエンス事業

- ▶ 欧州の培地新工場、中国のカスタマイズサービス拠点の本格稼働による培地事業のグローバル展開
- ▶ Shenandoah社買収で拡充した細胞培養関連製品による細胞治療薬の研究開発・製造支援ビジネスの拡大

2021年度の主な取り組み



1. 富士フィルムグループ環境戦略「Green Value Climate Strategy」を新たに策定。
 - ① 自社製品のライフサイクル全体において、2030年度までにCO2排出量を50%削減(2019年度比)
 - ② 2040年度までに自社が使用するエネルギー起因のCO2排出を実質的にゼロとする。
2. 「脱炭素社会の実現に向けた包括連携協定」を締結(当社、東京ガス、神奈川県南足柄市)。
3. 役員報酬へ脱炭素目標を組み入れることを取締役会で決議。



1. アンメットメディカルニーズへの対応や医療アクセス向上に資するバイオCDMO事業にかかる資金調達手段として、ソーシャルボンド(社会貢献債)を発行。(発行総額1,200億円)
2. 健康経営推進のため、従業員向けの健診施設「富士フィルムメディテラスよこはま」を2022年4月に開設。



1. 取締役会議長とCEOを分離し、業務執行の「監督」と「決定」の役割を明確化。
2. 取締役に対し、「譲渡制限付株式報酬」および「中期業績連動型株式報酬」を導入。



2022年3月期

連結業績及び事業概況

2022年3月期 業績(2021年4月~2022年3月)

(単位：億円)

	通期				
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響	為替影響 除く
売上高	21,925 100.0%	25,258 100.0%	3,333 +15.2%	900	2,433 +11.1%
営業利益	1,655 7.5%	2,297 9.1%	642 +38.8%	220	422 +25.5%
税金等調整前当期純利益	2,359 10.8%	2,604 10.3%	245 +10.4%	290	-45 -1.9%
当社株主帰属当期純利益	1,812 8.3%	2,112 8.4%	300 +16.5%	201	99 +5.4%
1株当たり当社株主帰属 当期純利益	453.28円	527.33円	74.05円	<その他増減要因（対前年度）> 営業利益における 原材料価格影響：▲193億円	
ROE	8.7%	9.0%	+0.3%		
為替	: 米ドル	106円	113円	7円安	
	: ユーロ	124円	131円	7円安	

セグメント別 連結売上高 | 営業利益

(単位：億円)

売上高	通期		対前年度			
	2021年 3月期	2022年 3月期			為替影響除く	
ヘルスケア	5,794	8,017	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%
マテリアルズ	5,662	6,272	610	+10.8%	373	+6.6%
ビジネスイノベーション	7,617	7,635	18	+0.2%	-175	-2.3%
イメージング	2,852	3,334	482	+16.9%	308	+10.8%
合計	21,925	25,258	3,333	+15.2%	2,433	+11.1%

*セグメント間取引消去後

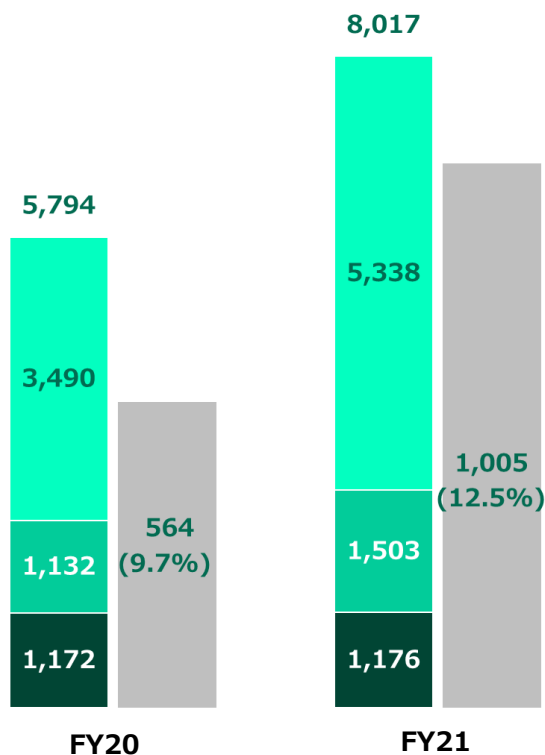
(単位：億円)

営業利益	通期		対前年度			
	2021年 3月期	2022年 3月期			為替影響除く	
ヘルスケア	564	1,005	441	+78.4%	362	+64.4%
マテリアルズ	513	684	171	+33.2%	105	+20.3%
ビジネスイノベーション	731	579	-152	-20.8%	-163	-22.2%
イメージング	156	370	214	2.4倍	147	+94.0%
全社/連結調整	-309	-341	-32	-	-29	-
合計	1,655	2,297	642	+38.8%	422	+25.5%

セグメント別概況：ヘルスケア

全サブセグメントでのオーガニックグロースに加えて、メディカルシステム事業における富士フィルムヘルスケアの連結子会社化も寄与し、売上高対前年+38.4%、営業利益対前年+78.4%となる大幅な増収・増益を達成。

(億円)



■ メディカルシステム
 ■ バイオCDMO
 ■ LSソリューション
 ■ 営業利益 (率)

■ メディカルシステム：売上高5,338億円（対前年+53.0%）

- 富士フィルムヘルスケアの連結子会社化に加えて、新型コロナ関連の検査に有用な製品の需要拡大や、医療IT、内視鏡、体外診断(IVD)などの分野で販売が伸長したことにより、売上が大幅に増加。
- 2022年4月に、富士フィルムヘルスケアの製品に富士フィルムの画像処理技術・AI技術を搭載したマルチスライスCTシステム「SCENARIA View Plus」を発売するなど、開発シナジーの創出も出始め、PMIは順調。

■ バイオCDMO：売上高1,503億円（対前年+32.7%）

- バイオ医薬品のプロセス開発受託及び製造受託が好調に推移したことに加えて、米国拠点での新型コロナワクチン候補の原薬製造が寄与するなど、売上が大幅に増加。

■ LSソリューション※：売上高1,176億円（対前年+0.4%）

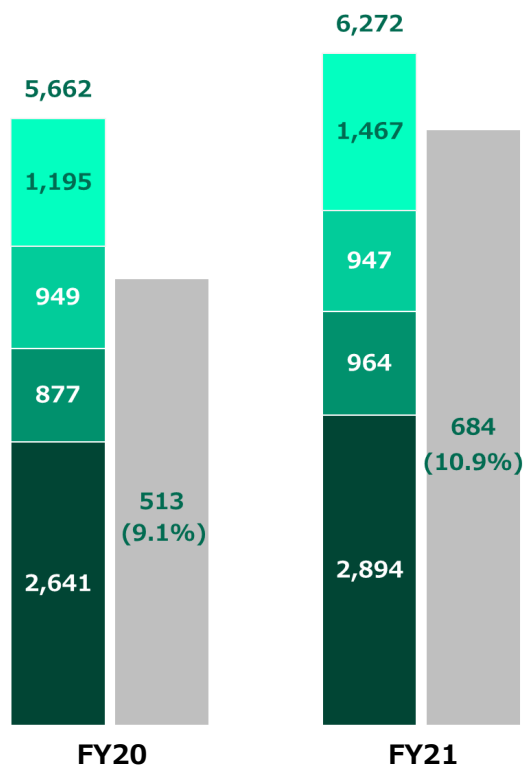
- ライフサイエンス事業は、バイオ医薬品製造用途の培地に加え、試薬や細胞の販売も好調に推移し、売上が大幅に増加。
- 医薬品事業は、放射性医薬品事業のペプチドリーム社への譲渡を完了

※当四半期から、サブセグメントの名称を「ライフサイエンス」から「LSソリューション」に変更
 ※LSソリューション：ライフサイエンス事業（細胞・培地・試薬）、医薬品事業、コンシューマーヘルスケア事業（化粧品・サプリメント）から構成される開示セグメント

セグメント別概況：マテリアルズ

新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、旺盛な半導体需要を背景とした電子材料事業の成長が牽引し、売上高対前年+10.8%、営業利益対前年+33.2%となる大幅な増収・増益を達成。

(億円)



■ 電子材料
 ■ ディ스플레이材料
 ■ 他高機能材料
■ グラフィックコミュニケーション
 ■ 営業利益 (率)

■ 電子材料：売上高1,467億円（対前年+22.8%）

- 半導体需要の増加に伴い、フォトレジストやCMPスラリー、ポストCMPクリーナー、ポリイミドなど幅広い製品群で販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。

■ ディ스플레이材料：売上高947億円（対前年▲0.2%）

- 「WVフィルム」は需要減の影響を受け減収となったが、前年から続く在宅需要を背景としたTV、IT関連向けの製品販売が好調に推移し、売上は前年同期並みを維持。

■ 他高機能材料※：売上高964億円（対前年+9.8%）

- 記録メディア事業では、新型コロナ流行下で落ち込んでいたデータアーカイブ目的のテープ需要が回復傾向にあり、売上が増加。

■ グラフィックコミュニケーション：売上高2,894億円（対前年+9.6%）

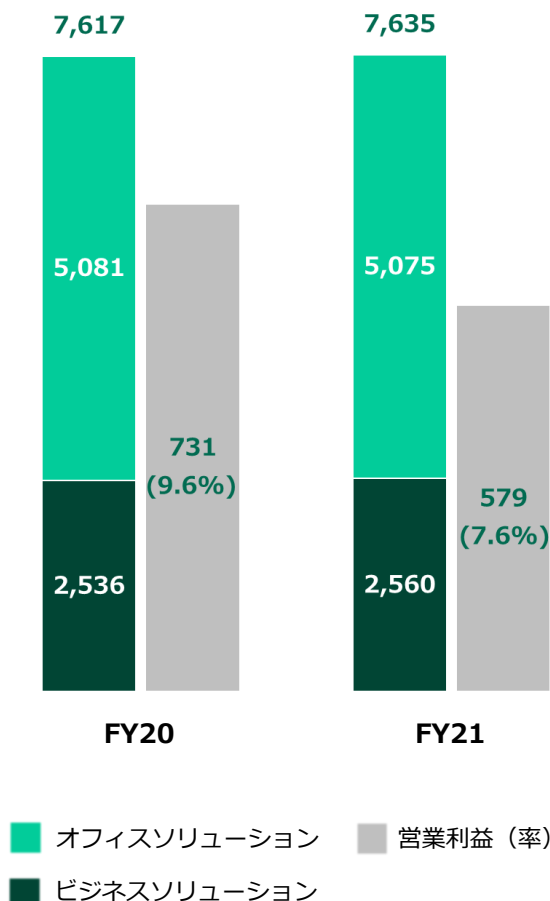
- グラフィックコミュニケーション事業では、刷版材料の新型コロナ影響からの回復に加え、デジタル印刷分野では、2021年11月に「Jet Press 750S High Speed Model」を発売するなど、販売が好調に推移し、売上が増加。
- インクジェット事業では、産業用インクジェットヘッドの販売が、欧州、中国の建材印刷市場での需要増により好調に推移したことに加え、インクは、ホーム&オフィス市場向け染料インクを中心に販売を伸ばし、売上が増加。

※他高機能材料：産業機材事業、ファインケミカル事業、記録メディア事業から構成される開示セグメント

セグメント別概況：ビジネスイノベーション FUJIFILM

売上高は対前年+0.2%と前年を上回るも、海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止や、半導体等部品の供給逼迫による部材費高騰や物流費の上昇などの影響により、営業利益は対前年▲20.8%で着地。

(億円)



■ オフィスソリューション：売上高5,075億円（対前年▲0.1%）

- 海外生産拠点でのロックダウンによる稼働停止や、半導体等の部品供給の逼迫および物流混乱を背景とした機器の供給・設置遅延などの影響を受けるも、ノンハードの回復や為替影響などにより前年並みの売上を維持。
- 2022年2月にデジタルカラー複合機及びプリンター「Apeos」の製品ラインアップを拡充。また、富士フィルムの海外拠点や有望な代理店の活用を進め、第3四半期より新たな市場にてオフィス向け製品の販売を開始。今後も新規のOEM供給も含め、グローバル展開を拡大する。

■ ビジネスソリューション：売上高2,560億円（対前年+1.0%）

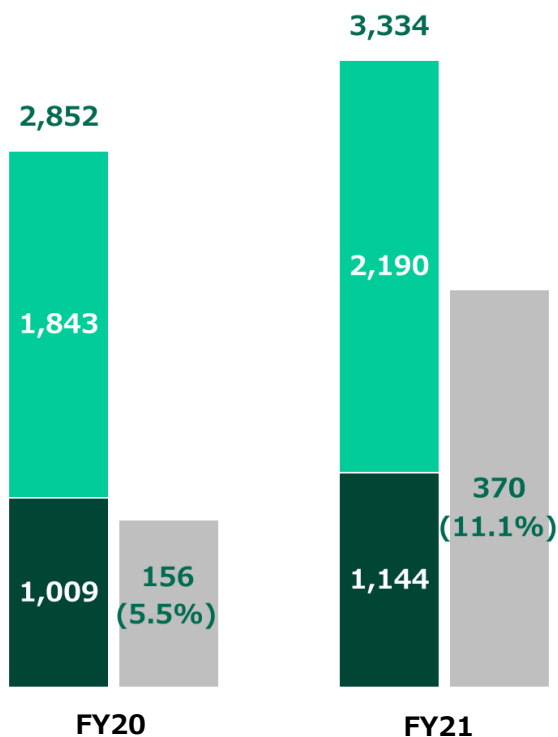
- 国内での自治体向けビジネスの増加や、海外を中心としたBPO※事業の好調などにより、売上が増加。
- 2022年1月1日に、HOYAデジタルソリューションズ株式会社の買収を完了し、「富士フィルムデジタルソリューションズ株式会社」として新たに事業活動を開始。新会社が提供する基幹システムの販売及び導入支援を含め、今後お客様のDXに資するソリューション・サービスメニューを順次提供し、ビジネスソリューション事業の更なる成長を加速させる。

※ビジネスプロセスアウトソーシング

セグメント別概況：イメージング

カラー印画紙や放送・シネマ用レンズ等の新型コロナ影響からの着実な回復に加えて、インスタントフォトシステムやデジタルカメラでの新製品投入により、販売が好調に推移し、売上高対前年+16.9%、営業利益対前年2.4倍となる大幅な増収・増益を達成。

(億円)



■ コンシューマーイメージング
 ■ 営業利益 (率)
 ■ プロフェッショナルイメージング

■ コンシューマーイメージング：売上高2,190億円（対前年+18.8%）

- 新型コロナ影響からの回復に加えて、インスタントフォトシステムや、カラー印画紙、ドライプリント機器及び材料の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- 2021年4月にミニフォーマットフィルムに対応した新エントリーモデル「instax mini 40」、同年10月にワイドフォーマットサイズのスマートフォン用プリンター「instax Link WIDE」、更に同年12月に最上位機種種の「instax mini Evo」と新製品を発売。いずれも市場から高く評価され、販売が好調に推移。

■ プロフェッショナルイメージング：売上高1,144億円（対前年+13.4%）

- 1億200万画素の高画質を実現したラージフォーマットミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX100S」が市場から高い評価を受け、販売好調が継続。加えて2021年9月に5千万画素の兄弟機「FUJIFILM GFX50S II」を発売し、「GFX」ユーザー層を拡大。
- 2021年11月には高画質と小型軽量を両立させた「Xシリーズ」最新モデル、ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T30 II」を発売。
- 新型コロナ影響により需要が減少していた放送・シネマ用レンズの販売が回復基調にあり、売上が増加。遠望監視やマシンビジョンなど監視計測領域の販売も好調に推移。

連結貸借対照表

(単位：億円)

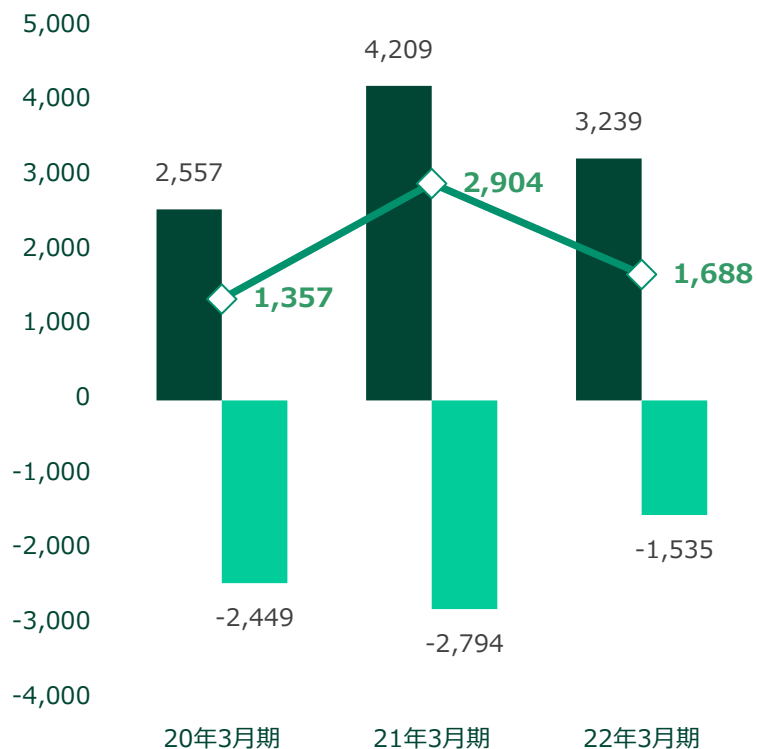
	20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末		20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末
現金及び現金同等物	3,961	3,948	4,863	915	長短社債及び借入金	6,242	5,030	4,472	-558
受取債権	5,584	6,057	5,986	-71	支払債務	2,223	2,399	3,032	633
棚卸資産	3,809	4,177	5,045	868	その他流動・固定負債	4,814	5,841	6,800	959
その他流動資産	1,538	892	1,353	461	負債計	13,279	13,270	14,304	1,034
流動資産計	14,892	15,074	17,247	2,173	株主資本計	19,533	22,046	25,027	2,981
有形固定資産	6,005	6,353	7,368	1,015	非支配持分	405	176	222	46
営業権	6,872	8,042	8,240	198	純資産計	19,938	22,222	25,249	3,027
その他固定資産	5,448	6,023	6,698	675	負債・純資産合計	33,217	35,492	39,553	4,061
固定資産計	18,325	20,418	22,306	1,888					
資産合計	33,217	35,492	39,553	4,061					

(単位：円)

期末日 為替レート	20年 3月期末	21年 3月期末	22年 3月期末	対21年 3月期末
米ドル	109	111	122	11円安
ユーロ	120	130	137	7円安

連結キャッシュ・フロー

(億円)



- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- ◇ 事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー

(単位：億円)

	20年3月期	21年3月期	22年3月期
当期純利益	1,383	1,835	2,164
減価償却費	1,227	1,234	1,330
受取債権の増(-)減(+)	533	206	347
棚卸資産の増(-)減(+)	-115	92	-683
営業債務の増(+)減(-)	-106	-97	210
その他	-365	939	-129
営業活動によるCF	2,557	4,209	3,239
設備投資	-847	-1,001	-1,261
ソフトウェアの購入	-250	-255	-399
投資有価証券の売却・購入等	-31	246	123
事業買収	-1,218	-1,735	-107
その他	-103	-49	109
投資活動によるCF	-2,449	-2,794	-1,535
フリー・キャッシュ・フロー(FCF)	108	1,415	1,704
事業買収等を除くFCF※	1,357	2,904	1,688

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収、及び投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

2023年3月期 連結業績予想

2023年3月期 通期連結業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期	2023年3月期	対前年度
売上高	25,258 100%	26,500 100%	1,242 +4.9%
営業利益	2,297 9.1%	過去 最高 2,450 9.2%	153 +6.7%
税金等調整前当期純利益	2,604 10.3%	2,550 9.6%	-54 -2.1%
当社株主帰属当期純利益	2,112 8.4%	1,920 7.2%	-192 -9.1%
1株当たり当社株主帰属当期純利益 ^(※1)	527.33円	479.05円	-48.28円
ROE	9.0%	7.6%	-1.4%
ROIC	5.6%	5.7%	+0.1%
CCC	122日	114日	-8日
為替 ^(※2) : 米ドル	113円	120円	7円安
: ユーロ	131円	132円	1円安
銀価格 (/kg)	89,000円	95,000円	+6,000円

※1 1株当たり当社株主帰属当期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2022年3月31日現在の発行株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※2 2022年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：3億円/年、ユーロ：8億円/年

セグメント別業績予想

(単位：億円)

売上高	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	
ヘルスケア	8,017	8,500	483	+6.0%
マテリアルズ	6,272	6,700	428	+6.8%
ビジネスイノベーション	7,635	7,900	265	+3.5%
イメージング	3,334	3,400	66	+2.0%
合計	25,258	26,500	1,242	+4.9%

(単位：億円)

営業利益	2022年3月期	2023年3月期	対前年度	
ヘルスケア	1,005	1,100	95	+9.4%
マテリアルズ	684	710	26	+3.8%
ビジネスイノベーション	579	700	121	+20.9%
イメージング	370	370	0	+0.1%
全社/連結調整	-341	-430	-89	-
合計	2,297	2,450	153	+6.7%

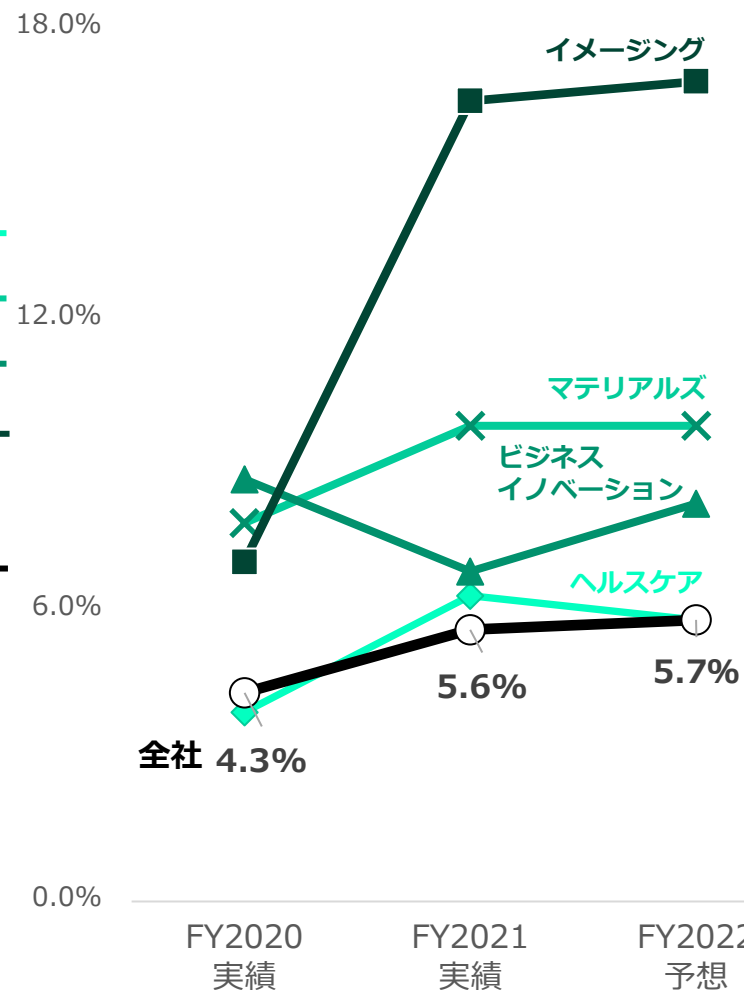
ROIC (Return on Investment | 投下資本利益率)

	2021年 3月期 実績	2022年 3月期 実績	2023年 3月期 予想
ヘルスケア	3.9%	6.3%	5.8%
マテリアルズ	7.8%	9.8%	9.8%
ビジネスイノベーション	8.7%	6.8%	8.2%
イメージング	7.0%	16.5%	16.9%

※ セグメント別ROIC = NOPAT / (運転資本 + 固定資産) で算出

全社	4.3%	5.6%	5.7%
----	------	------	------

※ 全社ROIC = NOPAT / (有利子負債 + 株主資本) で算出



- ◆ ヘルスケア
- ✕ マテリアルズ
- ▲ ビジネスイノベーション
- イメージング
- 全社

2023年3月期 キャッシュアロケーション

ポートフォリオマネジメントの強化により営業キャッシュフローを最大化し、財務健全性を維持しながら、ヘルスケア・高機能材料を中心とする成長投資を継続する。

Cash-In

Cash-Out

保有現金同等物

(2022年3月末実績)

4,863億円

CCC短縮に繋がるオペレーションの改善活動や、キャッシュマネジメント強化により、必要な運転資金を抑制。



機動資金

株主還元

480億円



設備投資

3,600億円※

(※有形・ソフトウェア・以外資産含む)



M&A追加設備投資

13期連続増配
配当予想 **120**円/株

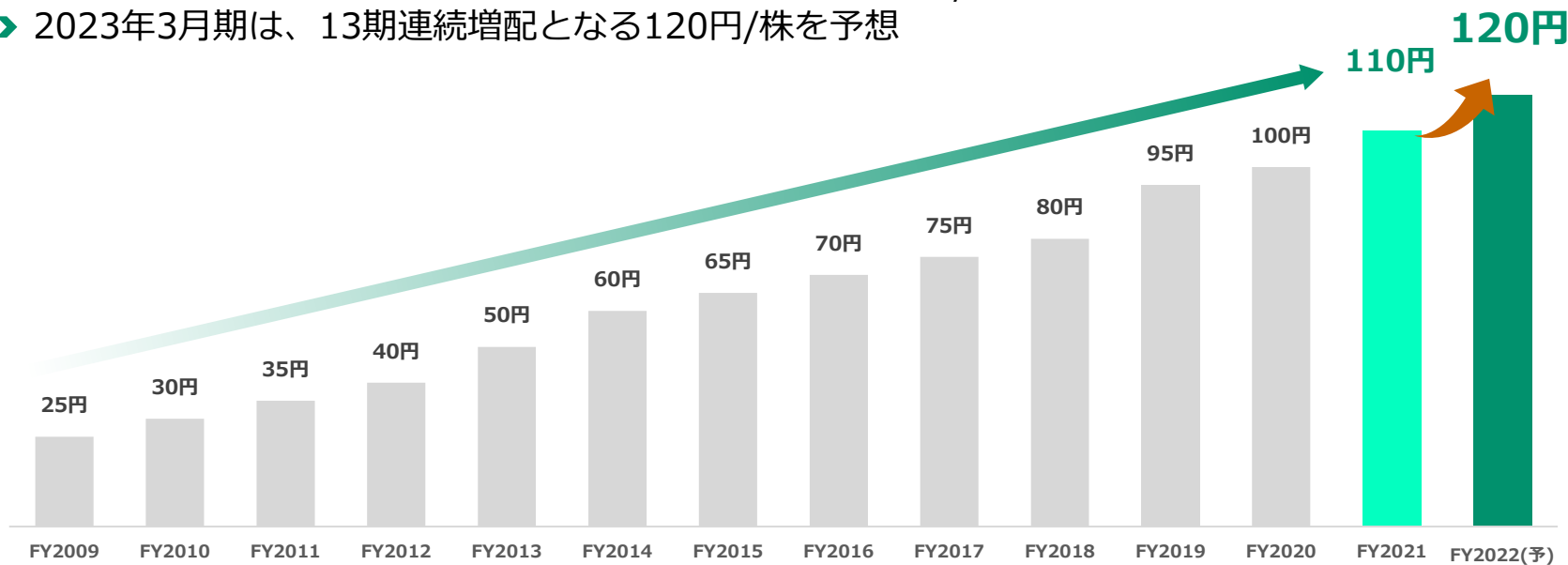
ヘルスケア・高機能材料への優先配分

成長投資

5,200億円

配当金

- 2022年3月期の年間配当金は、12期連続増配となる110円/株を予定
- 2023年3月期は、13期連続増配となる120円/株を予想

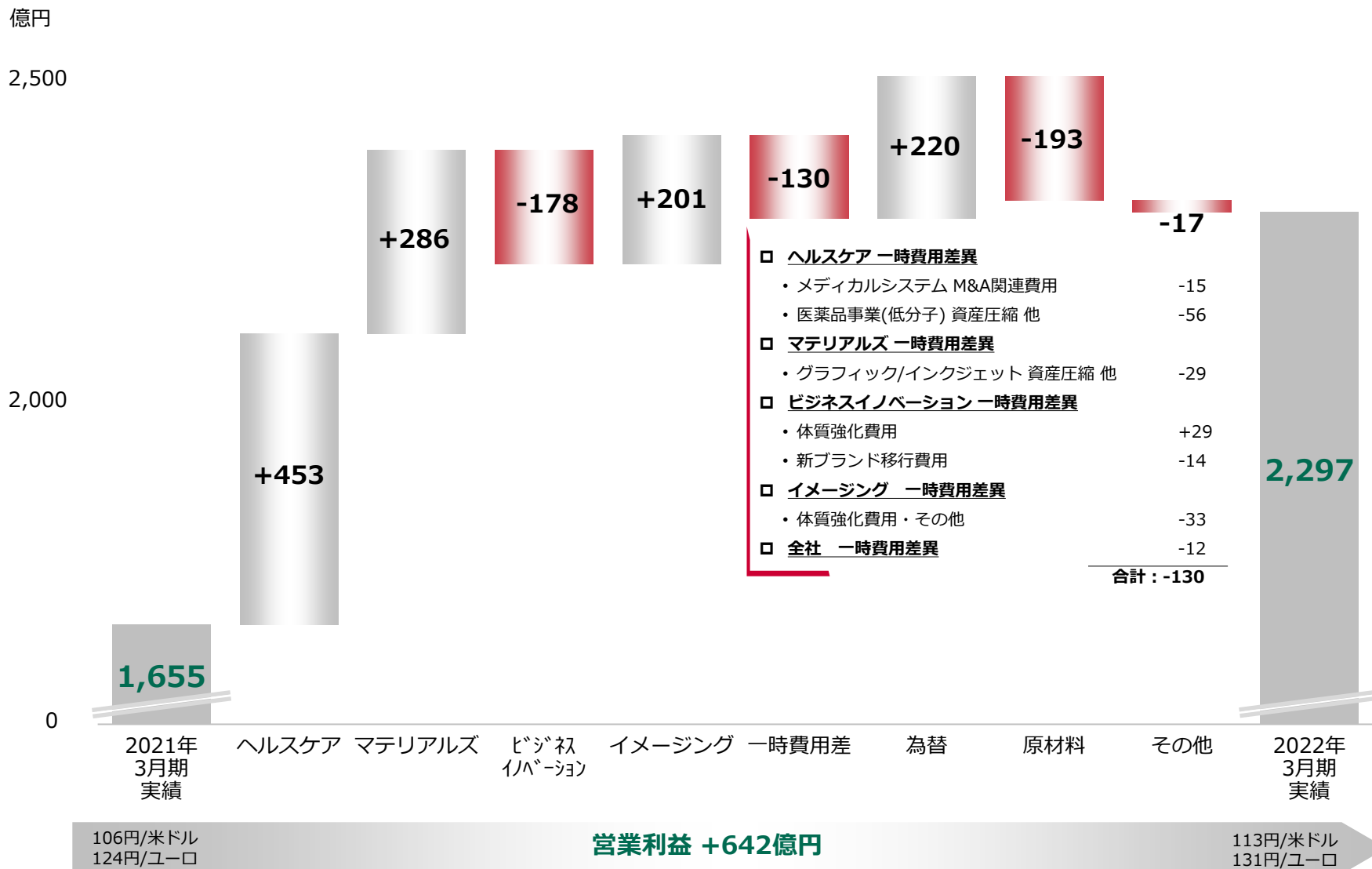


自己株式取得

- キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

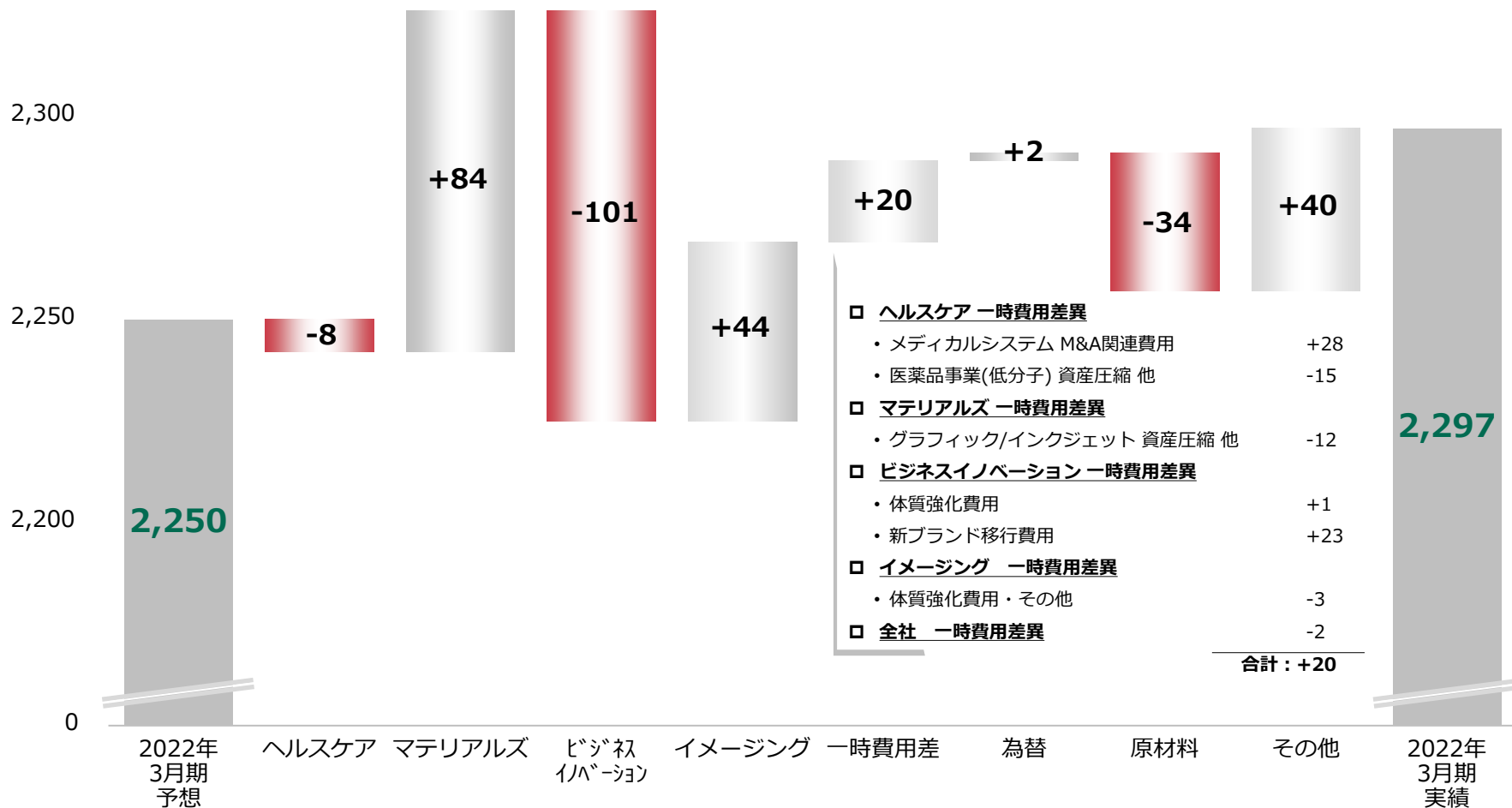
参考資料 2022年3月期 決算

営業利益増減分析 (通期実績 対前年)



営業利益増減分析 (通期実績 対 業績予想)

億円



- **ヘルスケア 一時費用差異**
 - ・ メディカルシステム M&A関連費用 +28
 - ・ 医薬品事業(低分子) 資産圧縮 他 -15
 - **マテリアルズ 一時費用差異**
 - ・ グラフィック/インクジェット 資産圧縮 他 -12
 - **ビジネスイノベーション 一時費用差異**
 - ・ 体質強化費用 +1
 - ・ 新ブランド移行費用 +23
 - **イメージング 一時費用差異**
 - ・ 体質強化費用・その他 -3
 - **全社 一時費用差異** -2
- 合計：+20

112円/米ドル
130円/ユーロ

営業利益 +47億円

113円/米ドル
131円/ユーロ

(単位：億円)

	4Q				通期			
	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響 除く	2021年3月期	2022年3月期	対前年度	為替影響 除く
売上高	6,191 100.0%	6,649 100.0%	458 +7.4%	219 +3.5%	21,925 100.0%	25,258 100.0%	3,333 +15.2%	2,433 +11.1%
営業利益	450 7.3%	432 6.5%	-18 -3.9%	-66 -14.5%	1,655 7.5%	2,297 9.1%	642 +38.8%	422 +25.5%
税金等調整前当期純利益	611 9.9%	532 8.0%	-79 -12.8%	-136 -22.2%	2,359 10.8%	2,604 10.3%	245 +10.4%	-45 -1.9%
当社株主帰属当期純利益	547 8.8%	541 8.1%	-6 -1.2%	-45 -8.4%	1,812 8.3%	2,112 8.4%	300 +16.5%	99 +5.4%
為替	106円	116円	10円安		106円	113円	7円安	
	128円	130円	2円安		124円	131円	7円安	

<その他増減要因 (4Q/12ヶ月累計 対前年度)>

営業利益における原材料価格影響：▲55億円 / ▲193億円

(単位：億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	1,913	2,250	337	+17.7%	245	+12.9%	5,794	8,017	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%
マテリアルズ	1,489	1,623	134	+8.9%	62	+4.1%	5,662	6,272	610	+10.8%	373	+6.6%
ビジネスイノベーション	2,123	2,044	-79	-3.7%	-118	-5.6%	7,617	7,635	18	+0.2%	-175	-2.3%
イメージング	666	732	66	+9.9%	30	+4.4%	2,852	3,334	482	+16.9%	308	+10.8%
合計	6,191	6,649	458	+7.4%	219	+3.5%	21,925	25,258	3,333	+15.2%	2,433	+11.1%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
ヘルスケア	202 [10.5%]	252 [11.2%]	50	+25.2%	24	+12.5%	564 [9.7%]	1,005 [12.5%]	441	+78.4%	362	+64.4%
マテリアルズ	54 [3.6%]	105 [6.5%]	51	+95.4%	26	+48.5%	513 [9.1%]	684 [10.9%]	171	+33.2%	105	+20.3%
ビジネスイノベーション	264 [12.4%]	157 [7.7%]	-107	-40.4%	-94	-35.6%	731 [9.6%]	579 [7.6%]	-152	-20.8%	-163	-22.2%
イメージング	15 [2.2%]	23 [3.1%]	8	+55.6%	-2	-16.4%	156 [5.5%]	370 [11.1%]	214	2.4倍	147	+94.0%
全社/連結調整	-85	-105	-20	-	-20	-	-309	-341	-32	-	-29	-
合計	450 [7.3%]	432 [6.5%]	-18	-3.9%	-66	-14.5%	1,655 [7.5%]	2,297 [9.1%]	642	+38.8%	422	+25.5%

4Q | 通期 業績：ヘルスケア

(単位：億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			増減	増減率	増減	増減率			増減	増減率	増減	増減率
メディカルシステム	1,068	1,542	474	+44.5%	422	+39.7%	3,490	5,338	1,848	+53.0%	1,667	+47.8%
バイオCDMO	406	417	11	+2.5%	-21	-5.5%	1,132	1,503	371	+32.7%	282	+24.9%
LSソリューション	439	291	-148	-33.6%	-156	-35.5%	1,172	1,176	4	+0.4%	-22	-1.9%
合計	1,913	2,250	337	+17.7%	245	+12.9%	5,794	8,017	2,223	+38.4%	1,927	+33.3%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			増減	増減率	増減	増減率			増減	増減率	増減	増減率
ヘルスケア	202 [10.5%]	252 [11.2%]	50	+25.2%	24	+12.5%	564 [9.7%]	1,005 [12.5%]	441	+78.4%	362	+64.4%

4Q | 通期 業績 : マテリアルズ

(単位 : 億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
電子材料	309	397	88	+28.7%	60	+19.4%	1,195	1,467	272	+22.8%	191	+16.0%
ディスプレイ材料	236	206	-30	-12.8%	-30	-12.9%	949	947	-2	-0.2%	-5	-0.5%
他高機能材料	234	237	3	+0.5%	-10	-4.2%	877	964	87	+9.8%	51	+5.8%
グラフィックコミュニケーション	710	783	73	+10.3%	42	+5.9%	2,641	2,894	253	+9.6%	136	+5.1%
合計	1,489	1,623	134	+8.9%	62	+4.1%	5,662	6,272	610	+10.8%	373	+6.6%

*セグメント間取引消去後

(単位 : 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
マテリアルズ	54 [3.6%]	105 [6.5%]	51	+95.4%	26	+48.5%	513 [9.1%]	684 [10.9%]	171	+33.2%	105	+20.3%

4Q | 通期 業績：ビジネスイノベーション

(単位：億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年	2022年	対前年度		為替影響除く		2021年	2022年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
オフィスソリューション	1,344	1,286	-58	-4.4%	-89	-6.7%	5,081	5,075	-6	-0.1%	-149	-2.9%
ビジネスソリューション	779	758	-21	-2.6%	-29	-3.7%	2,536	2,560	24	+1.0%	-26	-1.0%
合計	2,123	2,044	-79	-3.7%	-118	-5.6%	7,617	7,635	18	+0.2%	-175	-2.3%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2021年	2022年	対前年度		為替影響除く		2021年	2022年	対前年度		為替影響除く	
	3月期	3月期					3月期	3月期				
ビジネスイノベーション	264 [12.4%]	157 [7.7%]	-107	-40.4%	-94	-35.6%	731 [9.6%]	579 [7.6%]	-152	-20.8%	-163	-22.2%

4Q | 通期 業績：イメージング

(単位：億円)

売上高	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			増減	増減率	増減	増減率			増減	増減率	増減	増減率
コンシューマーイメージング	400	460	60	+15.1%	34	+8.3%	1,843	2,190	347	+18.8%	228	+12.3%
プロフェッショナルイメージング	266	272	6	+2.2%	-4	-1.4%	1,009	1,144	135	+13.4%	80	+7.9%
合計	666	732	66	+9.9%	30	+4.4%	2,852	3,334	482	+16.9%	308	+10.8%

*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q						通期					
	2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く		2021年 3月期	2022年 3月期	対前年度		為替影響除く	
			増減	増減率	増減	増減率			増減	増減率	増減	増減率
イメージング	15 [2.2%]	23 [3.1%]	8	+55.6%	-2	-16.4%	156 [5.5%]	370 [11.1%]	214	2.4倍	147	+94.0%

国内・海外別連結売上高

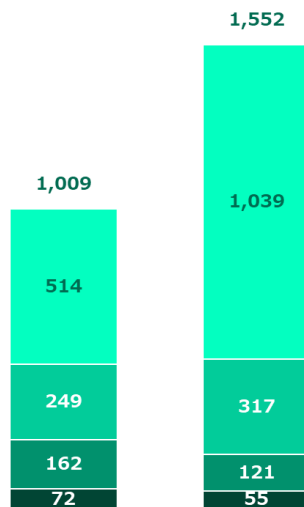
(単位：億円)

	2021年3月期		2022年3月期		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	42.3%	9,279	39.3%	9,919	640	+6.9%
米州	19.0%	4,163	20.7%	5,224	1,061	+25.5%
欧州	12.2%	2,679	13.4%	3,374	695	+25.9%
内、中国	13.4%	2,929	13.4%	3,390	461	+15.7%
アジア他	26.5%	5,804	26.6%	6,741	937	+16.2%
海外	57.7%	12,646	60.7%	15,339	2,693	+21.3%
合計	100.0%	21,925	100.0%	25,258	3,333	+15.2%

設備投資 | 減価償却費

(単位：億円)

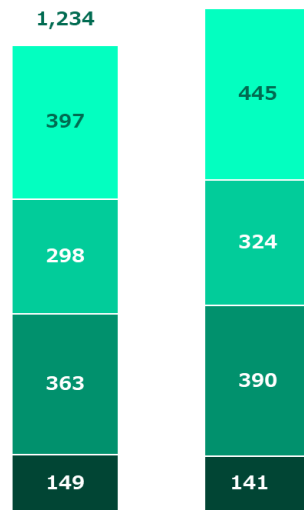
設備投資
(有形固定資産)
通期

2021年
3月期2022年
3月期

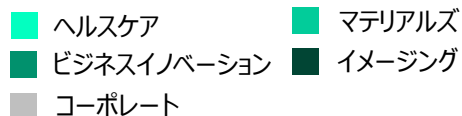
1,234

1,330

減価償却費
通期

2021年
3月期2022年
3月期

年度	4Q		通期		
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	206	397	514	1,039	2,150
マテリアルズ	102	124	249	317	620
ビジネスイノベーション	55	32	162	121	100
イメージング	17	18	72	55	100
コーポレート	5	10	12	20	30
設備投資 (有形固定資産)	385	581	1,009	1,552	3,000
ヘルスケア	25	39	94	113	150
マテリアルズ	20	25	51	68	50
ビジネスイノベーション	91	119	207	314	300
イメージング	25	17	70	54	50
コーポレート	11	21	22	39	50
設備投資 (ソフト、レンタル資産他)	172	221	444	588	600
ヘルスケア	102	117	397	445	510
マテリアルズ	81	93	298	324	340
ビジネスイノベーション	98	101	363	390	430
イメージング	37	34	149	141	150
コーポレート	7	8	27	30	20
減価償却費	325	353	1,234	1,330	1,450



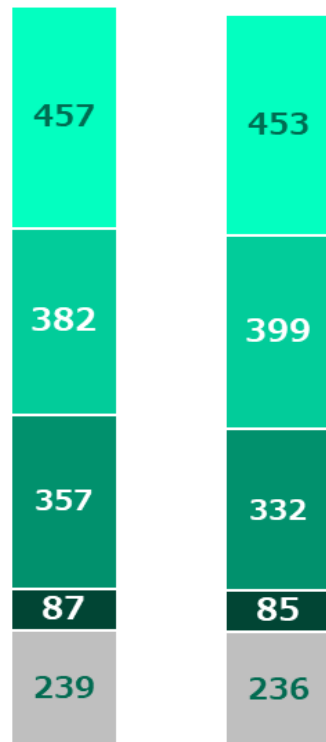
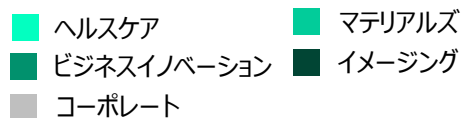
研究開発費 | 販売費及び一般管理費

(億円)

研究開発費
通期

1,522

1,505

2021年
3月期2022年
3月期

(単位：億円)

年度	4Q		通期		
	2021年 3月期	2022年 3月期	2021年 3月期	2022年 3月期	2023年 3月期 (予想)
ヘルスケア	157	119	457	453	
マテリアルズ	98	91	382	399	
ビジネスイノベーション	75	80	357	332	
イメージング	20	24	87	85	
コーポレート	65	72	239	236	
研究開発費	415	386	1,522	1,505	1,600
<売上高比>	6.7%	5.8%	6.9%	6.0%	6.0%
販売費及び一般管理費	1,323	1,669	5,520	6,530	
<売上高比>	21.3%	25.1%	25.3%	25.8%	

為替 | 原材料価格 | 人員

為替

(単位：円)

	2021年3月期					2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	108	106	105	106	106	109	111	114	116	113
ユーロ	119	124	125	128	124	132	130	130	130	131

原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2021年3月期					2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	55	78	83	91	74	93	86	86	88	89

人員

(単位：人)

	2020.9末	2020.12末	2021.3末	2021.6末	2021.9末	2021.12末	2022.3末
連結	72,176	71,474	73,275	75,879	75,007	74,842	75,474

パイプライン (2022年5月11日時点)

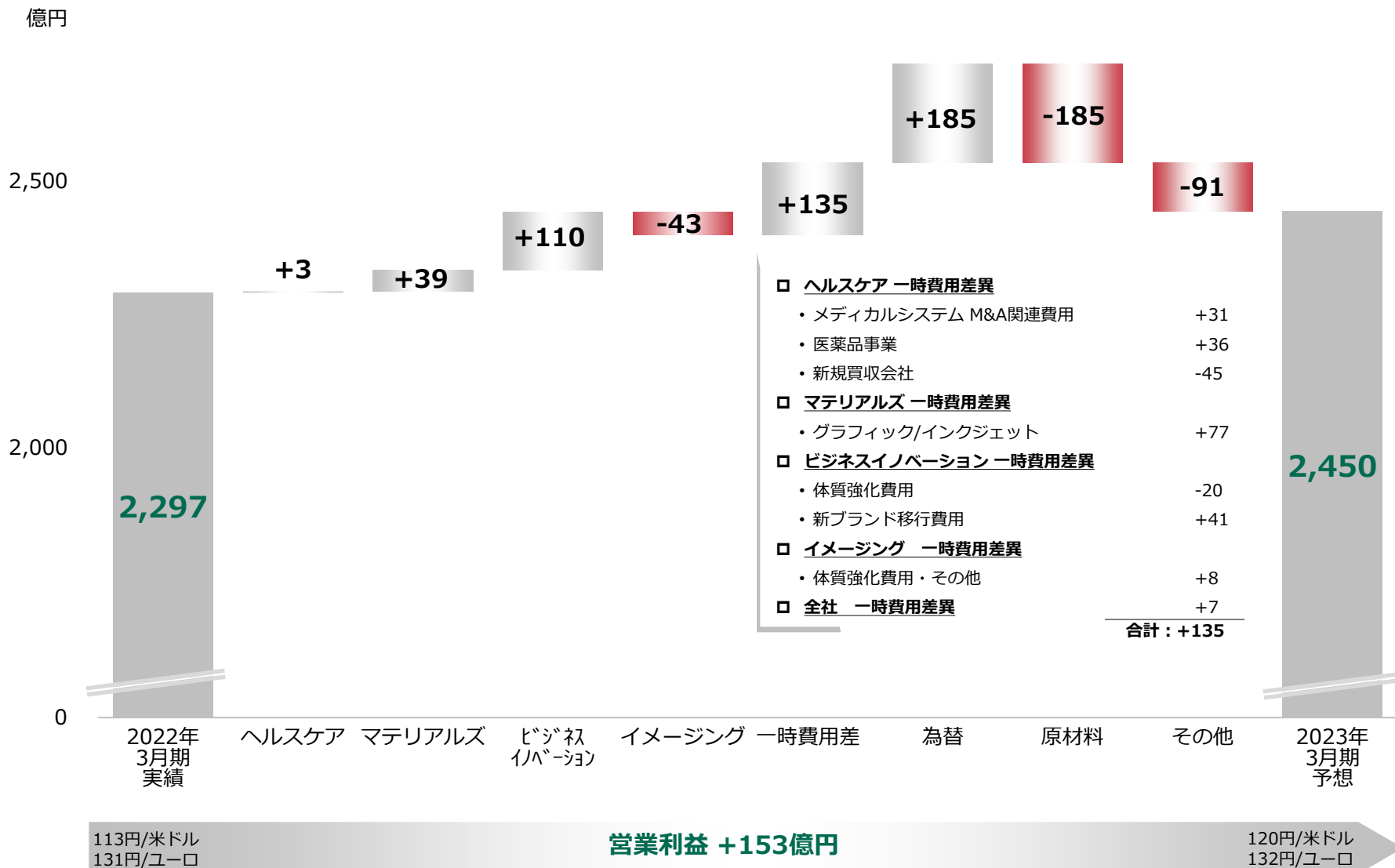
開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬	経口	日本	承認申請中
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph III
			米国	Ph II
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
			米国	Ph II
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタビンリポソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トポテカンリポソーム)	注射	米国	Ph I

- ※
- ・ F-1515、F-1614 : 製造販売承認を取得済み
 - ・ FF-21101 : 株式会社ベルセウスプロテオミクスおよび富士フイルム富山化学株式会社とのライセンス契約を解約
 - ・ F-1311、F-1614 : 放射性医薬品事業をペプチドリーム株式会社へ譲渡

のため、パイプライン表より削除

参考資料 2023年3月期 通期業績予想

営業利益増減分析 (通期業績予想 対前年)



設備投資 | 減価償却費

(単位：億円)

	設備投資	ソフトウェア等 [※]	合計	減価償却費
ヘルスケア	2,150	150	2,300	510
マテリアルズ	620	50	670	340
ビジネスイノベーション	100	300	400	430
イメージング	100	50	150	150
コーポレート	30	50	80	20
合計	3,000	600	3,600	1,450

参考情報

- **富士フイルムホールディングス 株主・投資家情報**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>
- **富士フイルムホールディングス 統合報告書2021**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>
- **IR資料室**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>
- **富士フイルムってどんな会社？**
<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>
- **グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」**
<https://www.fujifilm.com/jp/ja/about/brand/story/neverstop>
- **新型コロナウイルス感染症への取り組み**
<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>